新編水滸畫傳

七編

一三

へ21
875
63

へ21
875
巻 63

新編水滸画傳卷之六拾三

東武　高井蘭山翁　譯編

明治二十六年
十月十日
購求

○第七回　再童貫ふ盧

楊家院使童貫い沈日衰弱し。

れ蘇生せ〜ん地まで姑くやつと一息つき。夜ふ乘じて義延んと。畜生を

果ざる知ふ又も梁山泊の強敵攻来り。数子の大把白蛇の如く来た

ふ多ぞる一人の大将白馬ふ打乘て二丈ばかりの鋼鎗を引提風

凛〜たり。是別梁山泊の副主河北の玉麒麟盧俊義也。尤の方ふ扣へ

る副將ハ。病尖象楊雄右の方ふ控へる副將ハ。霹靂火秦明三郎石秀之名ふ

ふ扑刀を提げ。三ふ余人の軍勢を引連粧束を拌擻て攻来る。盧俊義

馬上より大ふ罵て云。奸臣童貫早くるとり下く縛と胥れと。

くれば。童蒙大ゐに悩ぜ流れゐ對して云前ゐ伏勢あり。後ゐ追兵あり。さを退已ゐ如何せんと慌ゐ。鄙英ゞ云極ね必ず憂かゐとなるべゐ。ねる思めゐ命を捨て。紙を截止めいひ入る。思い直ねとせゐ。一弟の孫を切ひ〳〵ひて。漁夫へ為ゐ為ゐ。べし〳〵と云捨て。るを躍〳〵ゐ舞〳〵。盧俊義を接く戦ひ〳〵ゐ。ゐ〳〵數合ゐ和〳〵ざるゐ。盧俊義いゐ中の後を見ず〳〵。鄙英ゞ持てるゐを打為し。渦勢処を近づく。後ゐ樓を撥て。只一弟ゐ戦るを跳ひ〳〵。活捉ゐ〳〵なし〳〵ゐ。ゐ〳〵ね。盧俊義が左右の副ね撥雄石秀めを二ねい孫前ゐ絶出鄙英ゞ乗る馬を奪ひ。鄙英を引殺して本陣に帰ゐ回ゐ。去程ゐ畢獨関信鵬挙ゐねい童貫を仰け〳〵ゐ。て故軍を切援走り〳〵ゐ。持後ゐ盧俊義ゞ軍勢ゐ切立て。敵〳〵ゐ歩なるね。恰も綱を漏魚のごく。ゐ〳〵。漁一分の童圍を切殺て漁夫さ〳〵

走りし処ゐ。向人の山坡の下より一族の故軍独り出る。来生ゐ。を。二人の英雄い黒旋風李逵。裏門林冲旭なり。各ゐ軍勢を引三ゐの歩軍と。辛ね後ゐ扣へる。二人の副ねい項充李衮なり。各ゐ。蛮牌を舞し。合後となる。を時四人の既ね。童貫ゞ軍勢を縦横ゐ切立れば。官軍大ゐ敗走ね。童貫ゐ為ねとゐ。且戦ひ且逃て流ゐ。故軍の援ゐを切ぬける処ゐ。李逵ゐ大斧を揺雷のごく。吼来る。童貫ゞ前ゐ扣へる。張鵬挙ゞ李逵の前を。只一斧ゐ。敗為せばるい。を侵倒れ。り。張鵬挙いるより為〳〵。逃んとせ〳〵。処を。李逵勢ゐ。乗ゞ。死者ゐ。斧を揺上げ。て。を。破為せ。り。童貫い。敗北の軍を。あつく。已ゐ。漁夫の近辺まぐ。逃延〳〵。せ。戦ゐ。ゐ。る。盗の不正。持る。絵の為ゐ。ゐ。ば。人。る。ゐ。ゐ。這〳〵。命を。ゐ。り。ゐ。童貫。を

溪辺より軍馬を伐めて立るゞ。忽ち又向ふの溪谷より砲の声天に響き
渡る矢い函のごとくあれば董貫大ふ驚き急ぎ溪谷ふ上り走らんと
せし処。左の方の林の中より一隊の歓軍攻来る。董生ふ躍り
出る大ねい没羽箭張清。左の方ふ拒る大ねい鎧旺。右の方ふ拒
る大ねい丁得孫なり。董生ふ三百餘騎の兵軍と戰ふ
者怪き弓矢と紅縫花槍を提り張清鎧旺丁得孫董生
ふ手んぐ攻来る。高俅の部監関係ふ。張清が軍勢のふきを歓負く
ふ中の陰と挺張清を接張清い左の方ふ拒と
紅関係と目ゞけ〳〵大ふ驚く云。董生
ば関係の裏をあられば走るより撲と落ふ。張清が左右ふ拒へる鎧旺
丁得孫のあねいを伐るとも出し。中の陰とれ出し。関係が喉候と突

くれば董ふ秋毫の辺地の手と摧春面の上林の花と出ゞ。帰
る前ふ死ふ。董生ふ董貫い畢竟と共ふ車を命を棄り敗残の軍
勢と引き車し。流れふ入れも四方の残兵を裏め。夜を日ふ引ぐ。東京を
差く去ふ。宋江い急く朝廷ふ帰順するのんあり。これい神よ
り加ふ命じく。加云董貫を捕へ志めば宋江を捕し。右
の軍るを收め。梁山泊へと向ふ。宋江ふ梁の人い皆金銀
と敵き。歩卒の車い弄し〳〵凱歌を唱へく。水滸の寨中ふ帰りくれば宋
江。呉用ふ孫勝い忠義堂ふ上り。饗宴ふ命じ。各れの功労を賞
し。多くの金帛を賜りく。引る処へ盧俊義へ。鄧飛を活捉のまく。階
下ふ引き曳り〳〵。宋江自ら立く。鄧飛が禁の縄を解き。堂上ふ請
じ。自ら盃を捧く。鄧飛とお待〳〵く。此日山寨の酒飲い年と歓〳〵

李逵
斧を揮
兵馬都監
殷鵬挙と
戦つ

るを宰し。大ふに三軍を賞し。宋江い鄧英を由日をとゞめ。酒食を以て大ふに歓待し。鞍るを徒へ。金銀織みて物を送られば。鄧英い大ふ喜びて。宋江い恭しく鄧英を指して云ひ段將軍ふ故し。威嚴を侵せしい。皆止とをねがへば。宋江ふい旧より英んある者ふあば。呂朔延ふ帰順して。忠家のねふかを出し。許用ふ左べきとを冀へ。たゞ朔延ふ帰順の人ふ恥せられ。かくの仕合ふてひへば將軍何とぞ我らが冐瀆を赦し。朔延ふ功ゆうまゞ。英云とて天子ふ奏し。我が死ひを叫へまゝ。英の大恩を徳死すとも忘るまゞと宣られば。鄧英も始めて理ふ伏して。義を教さるの恩を謝し。宋江ふ礼辞し。山を下られば。宋江い牧も人をしく。異のみまで送せられば。鄧英ハそれより呂一清ふ来へ帰る。去後ふ宋江い森び忠義堂ふ帰り。呉用を始め多くの頭領を聚め。軍支を吉儀して。之来は度十面埋伏の計と以て。壹貴ゞ軍を敗くふ攻破りとて。此は軍師智多星呉用が機策なり。時呉用宋江ふ對して云。壹貴家ふ用ふ孫子ふ奏し。大軍を起べし。今一人探籠の人を東京ふ遣べ。華の虚実を聞ひ。紹ひ。以て進徒をゐんいん。宋江が云。軍師の為ふ後援ふ身合せりとて。呂朔延の頭領ふ對して云。係る。乱人の中。誰か我ふ代役を勤めたまゐんやと。誰も手らざるふ。座中より一人をゝ出て云。小生孤ゞ往べしと言へられば。乱人も進ゆんと云へられば。乱神ふ志保戴宗なり。宋江大ふ喜ぶて云。是を家ふと探籠のとふ付て。多く作を労し。たり。時貴身東京へ赴んとなるべ必ず一人の幕客を同伴ゐべしと云られば。李逵傍より出て。我哥と同ぶく行んと。宋

江兵衛に係けまで處々に大串を惹出せば比度の使い叶へ
まじと。系二郎しられども。雪達磨も彷んと乞しうば第江大に吐と海
び間く云。淮ら賢牙と聞けく汐べきやと云られば赤髮鬼劉震を
出く云。小牙弟うば戴宗哥くと問じく彷んい如何とぶ江人に乗んぐ
伴しられば戴宗い劉唐とせふ。旅の男云れ志ゑ宋江に和辭し
あ人東系へ新ら。扨も東系の大元帥童貫入畢陽と世よ級軍
四方多孫と褒め。夜を日に繼ぐ急しうば。東系城もとく屋こけ
る処へ代張の軍ゐるせん名輝しく車出に陽ら。童貫い兵東系の人
るとく城中に入逆に成る志尉が敗に乗る。軍に歩負ゐる次第を
鄒炅を活捉られると。一く洋に彼られば。ゐる志尉られと。宋ておしも列ぜ
ば文輪に贏い無数の者こ。童云必ぜ慶ひのふとなられ兵天子とぶ報き

奉らば何の大変にあらんとて。ゐる体即時に童貫と。せん系志帥が
被に乗り知系志帥に童貫に陽て系の志帥が
笑必ず戦輪ちんとと系し。遂に遂に後堂に逆へ軍の沢分と宿りろふ童
貫系二物と。流られば系志帥が云。汝んを憂むるとあられ。比度の
戦に敗れ。ら戦疲られと嘆に。時に高俅を出く云梁山泊
の徒ら諸水泊に居して防ぎ。ゐる。新ら。くしてを。ぐ。九紋龍史
い民家ゐるを。攻し。四へ遂に猪利と失ひ。級加せりと。宜しく九成と
云られば。童貫や又絨の係に中りゐる沢分。くく俵ゐる。系が
云汝作多の宿ゐを失ひて。千の綾羅と貫し。豊よく比ゐと帝に
奏吸せん帝ゐ。比度を。ありの。ひ必ず汝と罰しゐ。童
貫系に。して云伏しく。ら大帥一点の仁義と。ゐ。系が

一命を救ひ給へ。蔡太師ゴ云我明日来因し。天色曉し。宋江つ
れ〴〵友旦軍を備へ陣を張りたるよしを奏すべくれば帝ゴ聞
と震ひうひてかくの如うんぬん猶の患ひ何れの日ゴられを除んやと。の
ゝまふとあらべ我を〻〻奏すべき辯なし。ゴる侍ゴ云帝ゴ聞果し〻〻
此等の言とのゝまうぐ。蔡大軍と〻〻親自梁山泊を攻加ゴん。太師
此ゴと奏し〻ひ。宣く吹噓と能し〻へ蔡京ゴ云是下肯く梁山
泊を攻ゆゴ一鼓ゴ絨と能〻んと何の疑ゴあゝん。我明日帝へ奏聞し。
再び梁山泊を攻しめんとて已ゴ終業し。ゴる古尉又告て云蔡
京山泊を攻んゴ若干の兵船を用ひ。水陸より並び進で推参すべきゴ。
此ゴ聞ゴ云是下の所存なり。我ゴれと
喪せりと。彈劾して居ゴる処ゴ一人の近習来る。鄧英駆りぬと報じ

られば。蔡京ゴ迎ゴ入ゴ云ゴして命を脱れゴるやと問ゴる。鄧英答へて云。
宋江ら梁山泊に帰ゴ。のゝまうゴ。宋江ゴ云。我明日結束して彈
丸一命を脱れ来ゴ。此久りぬと。其ゴ所ゴられば。ゴる侍ゴ云。
宋江ら彈の計ある。故ゴ云ゴと。梁山泊を攻ん
うゴ。ゴ東河ゴ水の人ゴると。僧ゴ可ゴ。
ゴ奏聞と遂ゴ。ゴと定むべゴれば。今日ゴ明日ゴ。我ゴれと
ゴ。ゴられば。ゴ侍ゴ童貫ゴ鄧英ゴ遣ゴ別れ。ゴ右ゴ私宅ゴ。

○十節度ゴ。ゴして梁山泊を取んとて

東京の蔡太師ゴ。ゴ侍ゴ童貫ゴを帰し。ゴ聖旨ゴ堂の一点。百度ゴ
来因し。丹墀ゴ於ゴ。天子と奏し。ゴ文武ゴ列ゴ。ゴ処
ゴ。蔡太師ゴ。ゴ。ゴ童ゴ。ゴ。ゴ梁山泊ゴ推参し。ゴ

突厥突厥〳〵人畜皆疲れぬるを以て軍を休め除〳〵と奏し
たれば天子歳〻ふかくのごとくべき節鉞を付と給へまで
こそ。蔡右帥宣ひけるは。鉞を捧げ出して攻しあまる。必
ず鉞とをし。一害と除くべし。天子宣ひけるは。樂山泊の鉞徒いん猿の
患ひなれば。これを除ずんば。ふたゝび鉞を
攻んやと。いまだ宣ひも終らざるに。蔡〻と出て奏しけるは。
うとゝいへども。大なるの労を能く立処より鉞を挙げて。天下の患を除きひい
んと。天子宣ひけるは。汝あく朕が為に精兵を撰ぶ汝ふ為へ
んぬ。速く軍を立べし。右帥又奏しけるは。樂山泊八方八
百里の水泊を私ふ為ぶべきを。ことに勅命を奉て。樂山
泊の道遠なる樹木を伐て。船を造り。水陸ともに推参せしむべ。必

ず
ことちまで。天子宣く法華経を書せん。行〻宣しうゝん為に。速
く〻大功を遂べし。終れば百姓を犯すとあるれと。雖ふ編命あり。勅
使を遣く。綸の絶と金の甲を。右帥ふ賜りければ。右帥ぶ
此月八百度ばかり退出したりけり。ふ又此天下ふかくれなく。英雄の
宣へ。九十節度使を。右帥ふ賜れば。ことちふ蔡右帥が鉞ふ和り。別蔡系ふ
又ゝを云るゝ。十節度使の者ふ生ふ。大金大遼ふの地を攻く。大功
立る。豪傑の尝れるを。去ぬれば。蔡は十鉞と。鉞と付んと欲
ば。鉞ぶ右帥文書を以て。此軍ふも作ひんや。蔡右帥ふ。択義し
て。十封の文を以て。十節度使ふ作せるべ。度る右帥勅命を
奉つく。樂山泊を攻る。十名度使の者。名一方の精兵を。ことに済品
れ裏り。笠〻と合せく。右帥と仰べ〻と命じ。彼十人

の大將等。

河南河北の節度使王煥　上黨大名の節度使徐京

京北弘農の節度使王文德　潁州汝南の節度使梅展

中山安平の節度使張開　江南雲陵の節度使楊溫

雲中雁門の節度使韓存保　隴西漢沔の節度使李從吉

瑯琊彭城の節度使項元濱　清河天水の節度使劉忠

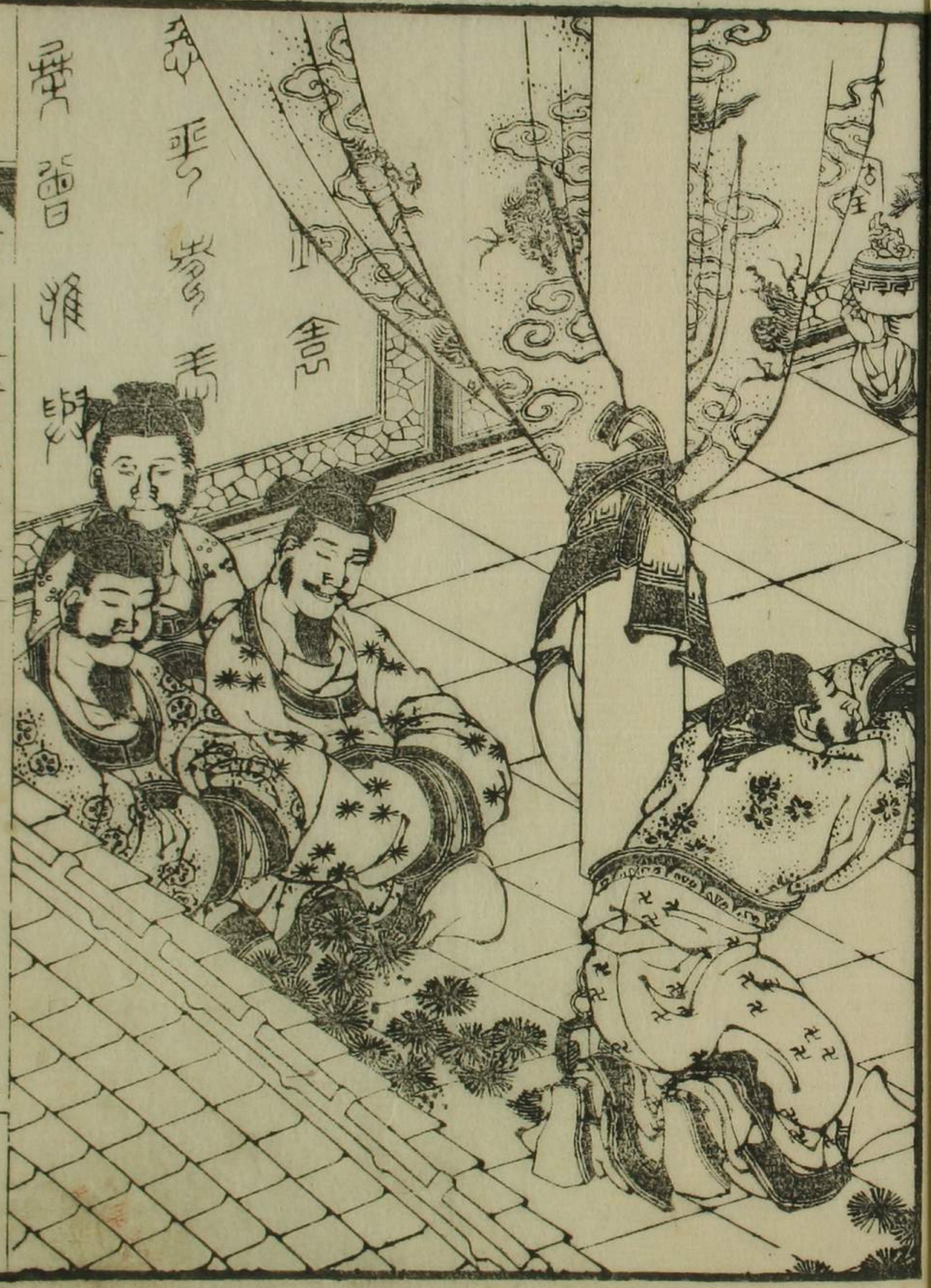
此十人の節度使ぶ人るい系其軍列くる精兵こ況やこれ初い昔日強盜の沢紋となるく。威風天下ふ振ひ。その後朝廷ふ仕へて節度使となり。如く第文武兼備の勇なる英雄にして。宋の人と同じくこれ時已ふ禁者卿の文書と為るく。若し云と偽しく久りて沢又金陵建康府ふ水軍の統制官劉錫と云ものあり。母ぶ錫ふ一條の黒蛇懷中ふ入とりて

つのふ此劉錫と從生せり。よりて名を劉錫と号けたり。此人幼よりて水性を知り。西川峽江ふ於て紙を平げ。大功となせり。故統制官ふ紀ぜられ。一万ふ水の水軍を以て。百條艘の兵船を備へ常ふ江海を巡りて左右を尉これを招く軍中ふ加へ又步軍校尉牛邦喜と云者と法華ふ善く。處々の兵船を浦々ふ裏わ。ひる者尉が性おふ。英平の大勇とへども。内ふ人の男士あり。一人が名い党世英。一人の名い党世雄と号し。同胞の兄弟なり。統制官ふ仕ぜられ。名万史不當の勇あり。左尉紀と十三万の人數を借し法華全く組へ近日發るをべきよ。風雲ふ乘られば。戴宗劉唐此者と梁山泊ふ投り。宋の勅旨。宋江ふ告げるふ宋江いる者尉ゲ十三万の人るを引十人の節度使とふ迎へ攻来ると実て。大ふ驚る

き。則呉用を請て計を議しければ。呉用が云。宋公明必ず憂へ給ふことなかれ。蜀の諸葛孔明は二千の兵を以て。曹操が十万の軍を破りぬ。是も彼十人の節度使が手を空しくして再度敵を亡し。朝廷のために大功を立るときなれども。其れは諸方の敵。彼らが對手になる者あらざりしゆゑ。今我山寨には若干の英雄あるに。何ぞ彼に如ざらんや。彼ら推出なんべき先陣を施して。一陣を破るべし。宋江問て云。軍師何等の計あるや。呉用が云。然る高太尉が入る處は必ず水路なれば我山寨より両人の猛将を施て先一陣を撃しむべし。宋江が云。誰をか遣さば可ならんや。呉用が云。没羽箭張清。双鎗将董平此両人を遣すべし。宋江實に其言に同じ。則張清董平に二万の兵を与へて。先水滸泊に出し。又水軍の大将に令じて敵の兵船を奪取せ。山寨の大事や

敵を防んためなりと僕しける。扨高太尉は御営の内より撰出しける精兵壹萬を先鋒に出させ。又三十余人の妓女を軍中に携へ已に吉日を擇て天子に辞別し。其より大軍都て東京城を進出ける。高太尉が出る處には党世英党世雄の両人を左右に従へ。其外統制官ども引く續へ出るも数重なりける。高太尉已に入る處を引く。衛兵に歩を発し。則る所に過る處の百姓を悩しければ。百姓甚だ苦しみけり。節度使王文徳は京北の地の人なるを。先陣に進み。鳳尾坡と云處に馳て掛る。忽ち一隊の人馬突出ける。其中一人の大将馬を乗出。旗號の上に英雄双鎗将風流萬戸侯と云十字を書。手に令旗を樹て。威風堂々たり。是則梁山泊の董平なり。董平馬を勒へて。大声に呼りけるは。今此処に来る

太尉高球
梁山泊征
討の綸命
と蒙る


晉雅與

るゝ所系の皮軍ふとぞ云ふ人ふくるとやうて蒙と鎧れふ王文德ひ
云と笑ふく呵〻とあざけり汝城二つの耳あるべきを我こそ笑つてん
我を見ず毋度胡說をとし名を天下ふ揚る都指使王文德と汝が
命惜しくば速ふ降ふく死を取れんや董平笑ひ散じ大ふ罵う汝城友
弱とし〻るを知らく梁山泊の英雄と知なば死限ふ知るべし王
文德怒を笑ふく怪う汝我が手ふ捕るを見ずと絵を振うると見せて
董平ふ鉤蒐ふ董平も槍を拳て迎へ合ねて互ふ勇を賞て二十
余合戰ひしかども勝負未だ分てざりけり

第二十四一名の尉を敗る

此時王文德ふ董平が武藝ふ驚き料ず卒然ふ跑馬
鳴三軍ふ命じて云ふ董平を捕ると云ふ戰ひを休く此処と跑抜ふと知とな
し岡せを通り抜れば董平人馬を引く追来う澎一里ばかり過る
処ふ前面ふ又一彪の人馬実く出没旗幟馬上ふ左くる罵り
罵り城安走るとなれとて石を投く飛ぶ如く王文德これを見て急
ふ鞭を打るふ左右ふ文德が盛の上ふ中つて火出し王文德大ふ驚
き鞍ふ伏して逃去る董平張ふ招て追来る澎近く成りし
処ふ後より又一隊の軍馬出る王文德これを見ふ都指使楊
温が軍なりと揚温大勢を引く王文德と物ひけ逐ふ合と一和ふ合
せられば董平張清教て逃げられよう軍馬を引く久しぬ文德楊温
の三軍を引く澎ふ成ふ成ふ自ら守張叔夜自ら逆へ城中
ふ入二三日の中ふ十人の都指使ふ
なるく蒙ふ尉の人馬ふ成りるを敗ぐられば張古書ふ十

節度使、於城外へ純出恭しく迎へ、城中に入、見る所ま
こへて、出陳のとを加へしふる。爲に尉十人の節度使に命じて云汝
らが人員の城外に屯ず。劉貴給が水軍、勇りなびせふを発せ
んと伺ふる。節度使の命令を受て、城外に打出、出を伐り敵と毀
て。陳棚を列ひ、ものを武と昔より爲る尉い出る〻法れの給給と會り。
送る者ふ戰はず〻〻功を紀し。給給を送〻る者ふ功あれども。功
と紀ず。始終強敵と戰ひ、終に討死せんとを糾り伐る。翌二日の
朝、劉貴給が兵船、出て。兵合〻〻うれば、伐る十人の節度使と集め
計を議しるに。王煥ふ云先人歩軍を率〻ひて。絨と德し出〻。法
〻を法ふ水陸より云紀とをめて。絨陳と勃せば。羅絨立処に死れて
遂に擒となるべし。伐ふ云後に即日兵を分て。王煥、徐彦と

先陣とし。王文德、梅展を後軍とし。張元、楊温を左軍とし。韓存
保、李俊吉を右軍とし。項元、荆忠を殿後の救ひとし。先世雄ふこ
の兵を率へ。劉貴給が水軍ふ加へ。戰ひを授けしむ。法ねもべを號
令を為す。後二日の内ふ合て、再び兵を綱へ、別る者尉を統て法軍の
緣伝とし、城外ふ出て。一〻これを點視ふ法一
段ふをせて、梁山泊へとふ〻よせる。投董平、法法ふ已ふ山陳ふ回て
と法を後細ふ報じられば、第江ふ法沈紋と共に大軍を引て山
を下りて。宋江軍を率て、両軍互ふ陳列を對し、法ふ
東京の先陣王煥、と越せ。陳ふ絶出。徐を横へる所ふ伐る
へ梁山泊の反紙、節度使王煥と識伝る。宋江、是を受て。自〻
陳ふ絶出ず〻〻云る。王節度法ハ是老年の大物あれば

いうんぞよく宋家の為ふかを出えんや。為に強あらば後ふ命を傷つく
一世の清名一旦ふ廢れなん。汝等はいまだ深思ふ田う壮士の大ねふ換せよ。王
煥これを聞て大ふ怒り。汝梁山泊の草賊とて。何ぞ天子を欺くや。宋
江が云王部殺汝必ず武勇ふ優るとあらん。我山陳ふ百餘人の豪
傑あり。豈あへく汝ふ輸る擬擬のあらんや。王煥吽も敢て後を絶く
宋江ふ捌くる。宋江が背後より豹子頭林冲。後を拳て王煥を逆へ
丈ねる。ふ平生の武勇を奮て死をすて切と爭へて。一住一来秘術を
尽くし戰ひしが。敵ふ為られとうそう得の勇士なりと。一度よ出と唱
ふ。王煥。林冲を指て抖く戰ひ已よ八十餘合ふ到れ共
雄いまだ決せざりしが。あ陳名金を鳴し軍を收めらるゆへ。王
煥林冲生擒ひと体の車陳ふ引入しぬ。ふる処よ。部殺使部忠る

と曜せ名を尉ぐるおふ能あり。多と座くの中ふ名ふ来ふ者ありといへども。城
と戰て一陳と突せんとす。敵ふ号令を聞ん。ふる名を尉られを突く大ふ怒
ひ幼部忠と出て戰ひしむ。宋江が陳中より呼延灼二ツの歌を発て部忠
を迎へ。ふる名勇を振くれ戰ひ良久しく勝負突ぜざりし処呼延灼
敗て十歩ばかり退く。部忠力を拳て追来ふ。あるはたふ交へ
ふ。呼延灼敗を発く。部忠ふ追ふ馬ふ乗て
部ふ能出。大ふ罵ふ。ふ城ふ来く戰と勝負と突せんや。老
平吟て起ばかり。西ふ向て。ふ陳を逆へ十餘合戰ふ。頃
張ると振く逃る。董平勢ふ乗じ追ふ。部忠と馬ふ乗て
頃て張飛と驚ふ。董平を拔て。後ふ馬ふ乗て。

が尤の時小中れう董平を囲み逃るれば項充法春び弓小箭を搭へ拒し
く逃走る林中呼延灼これを見て丙人命〻追来う。遂に董平を救
て寺陣小帰りける。宮古尉大軍を発し敵に攻られば宋江人る大よ
知れ四面八方小逃走る。宮古尉勢ひ衆じて水辺まで追蒐けり。さて
敗劉唐能い党世雄と共に水軍を引く。梁山泊へと紅を漕せ。宋江曰
ま已小数十軍ばかりを率い此処にとどまり小法
の安紅ども尾と連く呂覲漕ける処に。山坂のよ小泥の多大小雷。
四面八方より小紅群多漕出られ紅の上なる軍士共とて。名を
人中小聚ると。小紅ども小中小聚ると紅を捨て実毒る。安紅の軍士共。
初く此処小来りいまだ案内を知ら小紅小故〻戦小と能
ば。まい紅と棄く逃走る。梁山泊の豪傑ら安軍共ば法勢の知れる

と見く。斉〻敵と摂ひ小紅と攻め。緊〻攻られば。劉唐能党
世雄を紅と囲んと〻られども。梁山泊の小紅ども。前後左右より紅
囲む。大紅往来不自由なる小乗じ。安軍小を乗り紅を捨て水中小逃入う。劉唐能い衣
の安兵共大小仰天〻〻紅を捨〻水中小逃入う。劉唐能い衣
甲を脱捨て水の上小浮上う。一ツの小船を求く逃走る。彼党世雄い教て
紅と棄て呂覲小軍小を漕同〻。湖二三里ばかり小
出う〻知小前面小三艘の小紅漕来う。紅の上ハ張氏の三兄弟五
名絵を搖う。小近く寄られば安軍〻是と見て一戦小も及ば故と陸
水中小跳入ぬ。党世雄い独紅侍小立絵を搖り張小二と張と交へ数合
戦ひ居ば張小二行方知ず。忽ち小水中へ跳入り。沈小ぬ。張小七高小絵
と看て尤右より党世雄小掛蒐り来れば。党世雄歎すること能ばず

く水中ゆ逃入しが紅火児張横水底ゆ立く覚世雄と投へしぇ。
蘆葦の間より水軍洋多きり出ぇよ覚世雄と言るゆ小ぇゆ綿ぬ
山陣ゆ引渡せり。言右尉い水面と雷ぇるゆ。紅方の云紅紛ぬと
て紅れれぇ。水戦い紅方輪ると料う徴。意ゆ金を呼ー軍を収め
先流別へ同く再び良汁をなきんと儀しる知く。天をえゆ吹て四
下ゆ砲の雷ぇ響く雷き紅が軍る十方より攻来る物ひなり
しぇ。言右尉急統とく大ょ驚るき。法軍ゆ下ぇ急ぎ流見へ逃
同る。元来孫亀なる東京勢。砲のありと吹く見く自く知き慌く
走りしぇ。お互ょ踏傷ぬれるとき。数を知るべく梁山泊の軍る
此ゆまゆ一人も左ざりしぇども。只砲を放つく言俵と嚇しるゆ言俵
果しく自く紅れ。纏を消亀と死し。自く云と傷ひしぇ。ゆ思

図の如く言右尉い孫家張て流見城ょ入。水陸の法軍勢と黙視
ゆ陸軍ゆ失ひしい僅なりられぇ。水軍い大半紛れ。唯一艘の紅もう
へらざりぇ。劉麦統い遠く命と脱れく流見ゆ帰りる。言外の軍
士ぇいぇく水性と徴くるゆ。まれゆ一命を免れ。尤あきい見く水ゆ流て
死ゆ。言右尉が軍るい只此一戦ゆ雷ぇ折き。しく城中ゆ戻し。
牛邦売ぇ処くの軍紅と聚ゆ来ると待ぇ。頭と伸さるいかぇ。

○劉唐火と放く戦紅と焼

紛くる右尉い文書と法方ゆ。しく何紅と渡ぜ。皆流見へ聚る
べきぇ。と宿ゆ館ゆ。扱梁山泊の源中ょ。宋江先童平と物け
て張同ぇ林医安乃全ゆ命じて。童平が篝底と療治さセられ。安乃
全金瘡の膏薬と用ひられと医療ぇ。軍所呉用ゆ。ぇぇ法沢

紙を收め。山陳ふ上りる。水軍の張紙張横い。党世雄と活捉く。忠義豈の前まで引せられば。宋江まづ党世雄と後陳の間よ多く〳〵り。此段い奪ひ紅〳〵皆紅い染て水陳の間ふ倚へり。法ふ法張紙名号令と交くた義豈を遣きり。扨又る左尉い淵紅城ふ立く法物と集め梁山泊と敗くん針と後〳〵と寨ふ引ひ〳〵人る。ふ前段使徐系を出く云。宋昔日法ふを廻く武藝を倚行せ〳〵時一人の英雄と交りを結べりる。此人涼く離畧ふ通じ。呂云機と嘆〳〵。孫呂云ふ法蓋ふ智あり姓い聞名い煥章と号〳〵。頃日い東京城の外なる。安仁村ふ居住〳〵。る〳〵使書と指南〳〵。嘗と紙。ふ此人を招く参係と〳〵。彼呂用ふ強の孫ふ欲せ〳〵。戰をなるべ必ず勝利を招べ〳〵。る左尉これを聞く

既び斜なるべ。紙一人の使者を安仁村ふ発く慇懃ふ聞煥章と結〳〵。あり。これ使者命を奉く已ふ淵紅城と純出まど四五日もるざる。宋江ど人る。ふ淵紅城ふ推寄く戰ひと挑〳〵。る徐晃て大ふ怒り。ふ進人ると伐〳〵。前段使ホとせふ。城外ふ出。陳勢を列る。ふ宋江ど人るい。ふ里の外ふ退く平川曠地の地へ出ぬ。ふ紅色とうて。又云と発〳〵。退奉り。ふ軍已ふ對陳ち〳〵処ふ宋江ど軍中より一人の大将義中ふ被掛く。る陳前ふ跑出〳〵。ふ號の上ふ雙鞭呼延灼と分明ふ書ふ。る左尉これを見ふ怒て云。彼い。ん連還馬を布て紙と戰ひ。る。ふ步負て紙ふ。る不出不義の徒ふ延灼ふ。誰ふ。る彼と活捉く功名せと。左右を顧こる処ふ。雲中の前段使韓存保。方天戟を搖く陳前ふ。る出

張横水底ニ潛て党世雄と生捉

呼延灼を迎へるを交へ。両将勇を奮て五十餘合戦しかど。雌雄
更に分ざりし処に。呼延灼怒ふるを聞し逃られバ。韓存保驀く
追来り。其間近く成りし時。呼延灼再び馬を勒へ。二ツの鉄鞭を挙。純
に存保を交へ十餘合戦ひけるが。呼延灼又急に逃走る。韓存保心中にね
ん乃彼已に両度迄戦ひしかども。我に敵すると能はず。我今彼を活
捉ずんバ。又何れの時をか待んとて。又方天戟を拈て火急に赶寛一ツ
の山坡を過て二ツの路ある処に到りしに。呼延灼ハ平地の路を縫て渓
を繞て走り行。韓存保是を見て。大声に罵りけれ。呼延灼驀く
るを止て降参せよ。我猶もずんバ。立処に汝が一命を傷らん。呼延灼ハ
からと打笑ひ。汝こそ汝を活捉んと欲しく。此処まで誘し寄らるに
早く手を束ねて縛を受よと欺きけれバ。韓存保大に怒り。驀る渓辺

に躍せ。呼延灼ハ程近づく。此処一遍ハ高山。四辺ハ深渓まて一條の場
所なれバ。戦ふ不自由なりしかど。両将少しも騒ずして。掛てるを交へ。韓
存保ハ鎗を挙。呼延灼も鞭を揮し。各精神を抖て戦ひ。四五十合
に到りけれども。雌雄いまだ分ざりし処に。呼延灼急て鎗の柄を掻
り一向奪んと挽しかバ。韓存保ハ奪れじと。緊く握め良久しく力を
用ひて扯合けるに。二疋の馬勇力に壓れて。腰を折き。一同に渓の内に
落入けれバ。両将も共に渓水の間に論へて。押並べ引組。各勢を発
して格合しかども。相も劣ぬ大力の勇士なれバ上になり下になり
十四五辺反覆して。雌雄さらに分ざりけり。斯る処に一彪の軍馬
岸の上に馳来る。此大将ハ没羽箭張清なりける。両将が渓底に
在て組合あるを見て。急ぎ駈来り。呼延灼を助け遂に韓存保を

活捕て再び溪のほとりに已に人るとをめて出んとせし処に
前面に一彪の官軍来る。韓存保と呼ぶ。此処に於て官軍
已に遠遁者嶺の形と揚る戦と挑む。官軍の内より一人の大将を
こ出る。一人は都指使張冗。一人は都指使梅展なり。梅展已に韓
存保が活捉れるとうそ。恵骨髓より起り。急に刀を舞し。直に
張清と呼び破てうる。張清是を迎へ絶二三合を戰ひ。やがて
勒く逃走る。梅展後に従て逃うけ来る処に。張清急に槍鋒を
舞し。冗袋の内より石を出し。快く便と把て兵一歩に飛せ
来る。石果して梅展が額の上に中りしが忽ち血流き眼を眩
遂に力を奪て逃走る。張清追へ来りて已に亀くこへ来る
に。張冗逃うに張清に一条を放ち。張清が柔らかるの眼を射中れ

べるに倒れ張清地上に落ちる。拉塗と捧く奇戦とあり。張清
は兵卒と乗し人と歩の清は此と宛れ。武義は却て如ざる処あ
り。張冗は梅展と救よく車陣に同う。再びるを乗せ逃走る。亜
ち張清と追へ来る。張冗は武義の逆人とひ。清更る上に
車に自出と働きし。ゑび張清は大に敬さるを能び。慌忙き軍中
に逃同る。張冗は従て退走る。亜ち官軍の内に実入く。捨も人な
き処と泡るがごとく。四面八方に高りて。矢場に大騎突伏拉猛勇を
振く砲場に敬の大勢と東西に赴敬し。再び韓存保と奪れ已に
回さんとせし処に嶺の形大に起く。西涿の軍馬地来る。一隊は霹靂火
秦明。一隊は大刀関羽。西人の猛将飛ぶごとく砲来り。亜は官軍に
中に突入て敬くに歩れば。張冗遂に韓存保と奪く。独梅展を敬

ひ、後ども見えずして走り行。張清亡びるを垣く是に乗りて。又韓
存保を奪ひ獲して軍士に引せける。呼延灼も力を尽して一同に追
撃し。弥海昌城の辺に到りて軍を収め是より引回して。梁山
泊へ帰りけり。張宗は已に殺害を引て海昌城に馳入極めて遠くの北
宋江。扱宋江ハ忠義堂に在りて。自ら韓存保が縛の索を解懇に
待く堂上に坐せしめ。党世雄をも。共に堂上に邀へて韓存保に遇
せ。宋江先いまね(?)に対して云るん。義士一点も異心あることなし。
濫官に世を逼められて。此山寨に聚れり。朝廷の御赦免を蒙
らば。国家の為に力を尽すべし。願くば両ね軍門に帰らるゝこれを奏して
韓存保が云。向に皇帝陳太尉を勅使として。詔書御酒を賜り
下らを御赦免あるんとの御事なりしに。其節ハ何故敗北した

まハざりしや。宋江が云。其節ハ詔書明ならずして村酒を賜りし
加様人数くられを憤りあへて勅命に従ハざりき。譚文張韓辯。李
虞候擅に威勢を振て我等を恥しめ。罵詈をなしけるゆゑ。我等
下の者ども忽ち此両人を害し。奔んと気丈なりしを我強て是を
忍び。我等下を制止いたしぬ。韓存保が云。是皆濫官ホがなさしむる処也。
て国家の大半を誤りしと。嘆息三嘆なし。宋江急に酒宴を設け
おて両ねを送り。翌日両ねに馬を送りて山下を送りければ。両人
共に濟昌城に帰りて高太尉に見えて。宋江が帰順の心ある
を。詳に告けるに。高太尉これを聞て大いに怒り汝両人を数る。
我軍人を悩しめんが為の計なり。汝両人何の面目ありて還るぞ
び我にそむきしや。汝ら縛して然に両人とて已に左右に

令じ給へば。王燦が法大なる儲ぶ前に流て曰。此人に於ては一点も残ることなく皆家江呉用あ人が作処の針あるゆえに此人を殺しあらぐ。且て蔵られ朝り矣ひゆうん伏して雷霆の明うに堅身へ。高俅偽人に従ふ。あ人が命を繞しくんせ。職を制て東京に帰り刑秦乙官に作せくあ人と四対せしむ。存保に韓忠義が姪なり。韓忠義に蔡吉所の極機ある由を遂に大官に陞く性威ある所より。朝廷の安人韓忠義つ下より生る者多く。鄭居忠と中御史大夫あり。是に韓忠義が掘発する由なる由。韓存保と為に腔じうれば。韓存保一く来て鄭居忠に告げるに。鄭居忠即日韓存保を引く。尚書余深に会へとと編しくれば余深が云へ蔡吉所に行くこと後天に奏聞さば可なるんと。三人斉く蔡

京が鉄に至く。第江に呉に呉に行べしと。所教先と称するを伝へしに蔡京あごれと伝ぶしてこの冠に陳を尉と生いと。所教先の作あれば第江に当て既に所のんあ沒已に紹書と拉破て天子と敷らく徒ども。豈に所教先あるんや。時に高俅偽ゆりられ。之を処の勢に処の勢に専ら彼を嘯に紅のごとく。文に思沃の紅なりける四京第江に見を憤う者ご既に所せどるとこ。所の憐愍の上に所教先あるべ。彼必ず蔡京ゆ所すべし。権威と恐怖せしむと二つを用いて彼に対に死すとも敗ぶべ。百万の勢と成て紅紙を生せ。文に恐るんなこと上へ。何ぞ是の威と知れるの。四海の昇平を好このうんに。文の上四行ひ拝ぶべしとや。至られば蔡京文に服し。明日天子に奏聞すべしと。既に是皆これを謝して既りぬ。

聖上日天子紫宸殿に出御なり給れば。藥系列と出て宣紙を卽敎
あゝぶ大ふ可なりんと奏し給ふ。天子奏を准へ給ひて宣ひ給ふ。
今高唐州衙安仁村の聞煥章を軍中に待く。とゝよ針と高俅とんと
ち　四方の賊軍煥章近く奏聞するよしを聞及べり。幸ひに聞煥章と
勅使に添へて海州に出し給ふ。紙を敎まゝ。彼が紙に
て敎をるとあゝぶ。孫子俵を命じ給ふ。立処に數々しむべしと議定ありし
ゝ藥古卿勅命を奉り。早速聞煥章と城中に迎へ入れば聞煥章
いと喜び有名の文士にて朝廷の大官拜ふも。知る人多ければ日名
札相を送りて聞煥章と笑しふ。勅使いと沿書と携へ聞煥
章と共に出て打出ふ添ふと屋んぐを発し。相る右尉い添ふ城ふ
立く走ぐと憂ひ飛ぶり給る処に牛邦喜到りぬと報じられば。俵孫遠

對面して云紙のことを語ふ。牛邦喜答て云。系ぐゝ迴て大小の
云紙一ふ百艘を借して已なれば迎の川辺に知れり紙中の軍士
加く水戰に別る者ども。なれば一戰に勝利と打んと行の銀ろ。
高俅これと笑て欲ぶる。扨梁山泊の軍師吳學究いる
俵又云紙と借しうと笑て針と劉唐に授く。水路を案せ。
の沢紙ども。高針と授紙ども芦蘆荻葦茅ふと積しめ。故紙ど燒
払ひんとる事をとゞ網へ入れ。此外又云孫俵を始て右針とうけ
水陸ともふ陽を嚴密に備へ入れ。る右尉い再び梁山泊に長のべしと
て。水陸の兵と借しられば。牛邦喜劉唐統党世英ふ三打を水軍を
當て紙と焚ふ連ねを尾ふ繋の雲を焚て一日ふ潛出して梁山
泊ふ走り入る。故軍い一艘もこゝざり入れば時法に依ふ

発し。法の皮紅潮金沙灘の辺ふ到りて処々二艘の漁船漕来る。船の上に若干人の漢ふ在りて一時ふ喊ひ叫れば。劉豆豆これを見て大ふ怒り。ふ逃射人ふ命じ射たせるふ。彼漢ふ二段ふ水中ふ跳入り。劉豆豆弩弦ふ三下知しられば。法船ふ乗りて嫩の船を揚て漕来る。金沙灘の上ふ三百人の牧童牛を柳の樹ふ捨ぐ。岸の上ふ歩列ける。又一人の牧童牛ふ乗て。一番の笛を吹。樹の中より出来る。劉豆豆之ふ其の精兵と擇ぐ。岸ふ上せ。彼牧童ふ問ふこと大ふ笑て。柳の樹の蔭ふ隠れ入る。五七百の精兵共ふ上て来る。処ふ柳樹の間より。砲の響天地ふ震ひ。両辺ふ攻鼓喧しく鳴し。二隊の家る。九い霹靂火秦明右ふ双鞭ふ延焔く。右ふ百の人を引て来ふ水辺ふ到りしが。劉豆豆これを見て急ふ彼ふ七百の精兵と招き。急ふ船ふ乗ふ水ふ入て。法船ふ乗り。半邪喜い新軍の後ぐと追て。先後軍の船を退んとせり。処ふ大砲数ふ響き。蘆葦の間ふ聞くと。孫勝蟹を被劍を提。山の上ふ走て。風を彩る。風忽ち起て。雲霧。日色交ふ光なし。劉豆豆大風と見て。大ふ驚き急ぎ船を回して漕ぎ処ふ蘆葦深き処ふ。若干の小船出て。皮船のもしくは中ふ漕入。一段ふ火を放て。皮船を焼。報ぜ。針ハ呉用が劉豆豆ふ投く。船の上ふ蘆葦薪。硫黄煙硝ふの物を積せ今ハ大風ふ乗じて火を放ち。檀ふ皮船を焼しむ。皆時の間ふ皮船ふ猛火盛ふ。黒煙緑水ふ巻ひ紅焔清波ふ起る。後ふ鬼神とも称るしむる光景なり。此時劉豆豆ハ皮船ふ火起て焼盛んなるを見て。急ふ盔甲ふ脱

捨て水中に跳入れば水底と覚て脱れ行ける処に一艘の小船に迫に
漂て一個の人船の上に立れば劉唐船を漕れとえて又此処と遁行ん
とせし処に水底に一個の人みて劉唐が腰と抱て水面に
浮て出て船に乗の内に抱上て衣を乾かしけり此水底に立し者は
混江竜李俊船の上に立し者は出洞蛟童威なりけり扨次巻に
ひて呂球が軍の次第明らかなり

新編水滸画伝巻之六拾三終